

(様式第 4 号)

上田市林業振興協議会 会議概要

1 審 議 会 名	上田市林業振興協議会
2 日 時	令和 7 年 2 月 7 日 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで
3 会 場	上田市森林センター 2 階 会議室
4 出 席 者	清水委員、齋藤委員、渋沢委員、石井委員、中曽根委員、小林委員、赤堀委員、 田島委員、伊藤委員、大川委員、福田委員、山崎委員、中島委員、若木委員、 石川委員 (アドバイザー) 上田地域振興局林務課 山中課長補佐
5 市側出席者	北沢産業振興部長、市川森林整備課長、松澤林業振興担当係長、 松崎森林整備担当係長、米田森林整備担当主査、前野林業振興担当主事、 中川森林整備担当主事
6 公開・非公開	☒ 公 開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
7 傍 聴 者	0 人 記者 0 人
8 会議概要作成年月日	令和 7 年 2 月 14 日

協 議 事 項 等

1 開 会 (松崎森林整備担当係長)
2 あいさつ (北沢産業振興部長) 委員紹介 会長、副会長選出
3 議 事 (1) 協議事項 ① 松くい虫被害防除対策について 以下質疑 (委 員) 樹種転換について、アカマツ以外のどのような樹種を植栽しているのか。 (事務局) 基本的には土地所有者の意向を優先し、広葉樹が多い。また、森林経営を行う土地所有者に 関してはスギやヒノキなどを植栽する場合もある。 (委 員) 資料 5 ページの全国の松くい虫被害量の推移から、12 年ぶりに松くい虫被害が増加した理由 を教えてほしい。 (アドバイザー) 上小地域でも令和 5 年度あたりから増加傾向にあり、地域では青木村や長和町で増加して いる。断言はできないが、猛暑や暖冬が続くことにより、マツノマダラカミキリの生息期間が 伸びていることや生息範囲を広げていることによる影響と考えられる。 (委 員) 松くい虫の被害は、林業総合センター等の試験研究結果から、標高に影響すると考えられて いる。過去には概ね標高 800m が被害のボーダーラインと言われていたが、近年では 1,000m まで上がってきており、今後の新たな課題になってくるのではないかと。 (委 員) 増加傾向への対応が今後必要になってくると考える。対策のための費用が掛かってくると思 ったため、状況を教えていただいた。 (委 員) 松くい対策については次年度以降も例年通りに実施していただきたいが、ナラ枯れの被害状 況を教えてほしい。 (アドバイザー) 上田地域では今のところ、被害は見られない。 (委 員) バイオマスの関係 (森林病虫害被害枯損木利活用事業) について、今後範囲を広げて実施す る予定はあるか。 (事務局) 被害状況や材の搬出に適している場所か否かを踏まえながら検討したい。 (委 員) (森林病虫害被害枯損木利活用事業の) バイオマス供給状況について経済効果はあるのか。 (事務局) 搬出された材は東御市の発電施設に持ち込んでおり、販売代金は市の収入となっている。そ の財源を活用し、森林整備及び松くい虫被害対策に充当している。 (委 員) 令和 7 年度の樹種転換計画について事業量が 39.7ha となっており、多くの材が搬出される と予想されるが、活用先としてバイオマス燃料と製材・用材等で、どちらの活用を考えている

か。

(事務局) アカマツは用材に適しているものは用材として活用し、枯損木については可能な限りチップ・パルプ等への利活用を推進したい。樹種転換事業は個人有林を対象とし、森林組合等が事業主体となっている。所有者の意向を最優先しており、売り上げについては事業費に充当し、できる限り所有者に還元する形で実施している。

(委員) 樹種転換や更新伐の使い分けについての基準を教えてください。

(事務局) 樹種転換は「守るべき松林」を保護するために、その周辺の松林を中心に実施するものである。一方、更新伐は一帯が松くい虫被害を受けている松林に対して、伐採を行い、経済効果の見込めるカラマツ等の樹種を植栽するものである。

(委員) 松くい虫被害のあったアカマツについて、以前は製材し家具等に利用していたことがあるが、被害のあったアカマツ材を製材方面で再利用する計画はあるのか。

(事務局) 以前はアカマツを活用したベンチや、チェーンソーアートによりクマをかたどったオブジェを保育園等の施設に配布した、上小林业振興会による事例があったが、今後、普及啓発を図る意味でも実施を検討したい。

(委員) 過去には製材に利用できるような良いアカマツが搬出されており、上小木材協同組合でも製材し、家具等に利用していたが、近年では被害を受けたアカマツは入ってこないため、すべてバイオマスに回していたのかと勘案していた。

ぜひ、被害を受けたアカマツ材も製材として活用していただきたい。

(委員) 過去には非常に大きなアカマツが被害を受ける事例が多くあり、再利用の観点からも、製材したものをフォレストライフ協同組合で確保し、各市町村に使用してもらう事業を上小林业振興会で実施していた。近年では製材に向かない小径木のアカマツの被害が多くみられるようになり、バイオマス燃料に回される比率が高くなっている。上田市からの要望に合わせて製材方面での事業を進めてもよい。

(委員) オブジェ製作を 12 年間ほど実施しており、好評であったため、再開も検討していただければと思う。

また、バイオマスへの利活用について、市の予算を活用して事業実施しているとのことであるが、歳入とのバランスはどうか。

(事務局) 全体の事業費と被害木の材価との比較では、支出が大きく上回っている状況にあり、今年度は約 400 万円の事業費に対して 100m³ ほどの材をバイオマスに活用しているが、収入は 4~50 万円程度となっている。

(委員) 松くい虫被害を受けたアカマツ林を放置するよりは役立てた方がよいとする方針という理解でよいのか。

(事務局) その通りです。材を放置することで萌芽更新が阻害される、また、森林が荒廃する要因となるため、健全な森林を維持するための事業と捉え進めている。

(委員) その考えだと、(ベンチ等の) 木材を上田市に支給する形で方法論としてはあり得ると考える。

(議長) 採決後、内容を承認

② 上田市森林整備計画の変更について

(委員) 「植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の基準」に該当する森林について、考え方は理解できるが、数値的にどの程度の面積があるのか具体的に記載できないか。

(事務局) 23 ページの設定例の 2 以降については現地確認によらないと判断ができず、場所により状況が異なるため、該当する森林の面積等では出しづらいため、このような記載方法をとっている。

(委員) 今回は仕方がないがドローン等を活用して、確認することは必要になってくると考える。流域の上流の状況を確認することで災害の防止等にもつながることに加え、更新が困難な森林は土砂災害発生の可能性も否定できないため、今後の課題としていただきたい。

(事務局) 指摘の通りだと考える。ドローンをはじめ新しい技術も出てきているため活用を検討したい。

(委員) 「植栽によらなければ適確な更新が困難な森林」に設定されると、必ず植栽により更新を進める

必要がある森林に規定されるということか。

(事務局) 現状は人工林であっても天然更新が認められている。ただ、「植栽によらなければ～」に設定された箇所は天然更新する可能性が低いとみなされるため、植栽が必要であるという意味合いである。

(委員) 「植栽によらなければ～」は属地的には決められない背景から、その都度現地確認等により、属性的に設定することが重要であると考ええる。

(事務局) 伐採届が市に提出された段階で、職員による現地確認を行っている。その際に 23 ページの設定基準に当てはまる区域であれば、植栽を所有者・事業者をお願いすることになる。1 件ずつ確認していくことが現実的であり、該当する森林を拾い上げて面積を記載することは難しいと考える。

(委員) 23 ページの設定例の 2 に関して、アカマツやヒノキは天然更新することから、これらの樹種が斜面上方にある場合は、天然更新が見込まれるであろう母樹の対象にならないのか。

(事務局) ケースバイケースであると考ええる。上田地域で更新できない山林は少ないのではと考えている一方で、林業適地を天然更新させることはもったいないとも感じている。

(委員) 低密度植栽の導入について、カラマツは現状では強度を見込まれて建築材や合板等に利用できているが、果たしてカラマツを低密度植栽した際に強度が担保されるのか疑問である。記載の文章では 1,500 本の植栽密度が最も適しているかのような記述になっているが、どのように考えているか。

(事務局) 担当者としても、カラマツの低密度植栽については強度担保の面から疑問が残る部分はある。表記に関しては、あくまで低密度植栽が可能であるという意味で捉えていただきたい。低密度植栽は間伐回数が減らせる、もしくは減ってしまうという長所短所両方の側面があり、低密度植栽が最良な植栽方法であるとは、市としても考えていないため、事業者や森林所有者の意向も聞きながら、選択肢の一つとして対応していきたい。

(議長) 本項目に関しては意見もいただいたので、対応を事務局に一任したい。

(議長) 採決後、内容を承認

(2) 報告事項

① 森林環境譲与税の活用状況について

以下質疑

(委員) 森林環境税の使途がわかり勉強になった。第五中学校の内装木質化について、子供たちに木のすばらしさを伝えられる素晴らしい事業であると感じた。今後は同様の取り組みを増やしていくようなロードマップはあるか。

(事務局) 公共施設に関しては、保育園や小中学校の木質木造化を進めていきたいが、一方で木材を使用するコスト高が指摘されており、財政状況もかんがみですべてに対応することは困難である。ただし、森林環境譲与税の財源があるため、建築部門や教育委員会と適宜情報共有しながら市全体の取組として進めていきたい。

(委員) 使途のうち普及啓発について、予算一覧には見当たらないが、実績や今後の計画について教えてほしい。最近の子供たちは森林への関心が薄れている傾向がみられるため、学校の木質化と並行して実際に木がどのように生えているのか等の森林教育を教育委員会と連携しながら、基金の一部を活用して実施してほしい。将来の森林を守るのは子供たちだと考えるため、地域の良さを知ってもらう原体験に活用してほしい。

(事務局) 普及啓発の部分が譲与税の使い道としてまだまだ弱いと認識している。木を使ったおもちゃの作成等、森林を身近に感じてもらえるような事業を進めたいと考えている。意見をいただいたように、人と森の関係が希薄化している中で、森林のありがたみが薄れてきているということがあるため、環境教育や木育に取り組む事業者のご協力をいただきながら取り組みを進めていきたい。

(委員) 森林環境税の使途について、防災減災を目的とした個人所有林の整備は困難な作業ではないかと

考えるが、そのような中で市有林整備に相当額の森林環境税を使用している。また、市有林で試験的に森林環境税を使用した例があったが、成果を今後どのように使用していくのか。

(事務局) 森林環境譲与税は手入れが行き届かない私有林の整備に使用することが一丁目一番地と国の方針として示されている。現在は真田町曲尾地区において森林経営管理制度を活用した私有林の整備を進めており、所有者一人一人の意向調査、現地境界確認が必要であり、面積的には限定的ではあるものの、森林環境譲与税の目的を鑑みて進められているという認識である。一方では、現在市有林において実証過程にある件については、市民の財産である市有林の整備も重要な視点と捉えつつ縮小する方向性も検討しながら、個人有林への活用を中心に基金の取り崩しを行って事業に取り組みたい。

(委員) 森林環境譲与税は復興特別税の終了を受けて始まっているが、森林環境譲与税は恒久的なものか。

(事務局) 市としては森林整備に係る財源として恒久的であってほしいが、国税として徴収されるものであり、国の最終的な判断による。

(委員) 日本は先進国の中でも森林が多く残っている国であるため、ぜひ上田市としても森林を守っていただきたい。

(委員) 森林環境税は言い換えれば森林の価値を貨幣換算したものであり、上田市では年に 1ha=290 万円の価値になる。このように一般市民にもわかりやすい説明の仕方、かつ目の届きやすい箇所に記載いただくことで、森林を適切に管理する重要性を普及啓発してほしい。そうすることで林業従事者の働き甲斐にもつながってくると感じる。

(事務局) 森林環境譲与税を市民の方からいただいているという認識がありますので、使い道等に加えてどのような恩恵があるのかをわかりやすく説明する必要があると考える。関係機関と効果的な方法を相談しながら周知等を進めていきたい。

② 第三次上田市総合計画について

以下質疑

(委員) スケジュール的にはこれから 1 年間で進めるという認識でよいか。また、最後は議会で承認を得るという認識でよいか。

(事務局) 令和 8 年度が始期の計画になるため 1 年かけて議論を進め、今年の 9 月議会において承認を求める。

(委員) 今後も意見や要望等は受け付ける機会はあるのか。

(事務局) パブリックコメントも予定しており、そこで受けた内容も反映可能であるため、多くの意見をお寄せいただきたい。

(委員) 森林に関する活動の多くは税財源によるもののため、納税者（市民）の理解と教育が必要であるとする。そのうえで、子供たちへの環境教育は非常に有効であるとする。次の世代に森林の大切さを教えることが森林環境譲与税を確保し、森林を守っていくことにつながる。昨年、私自身が長野県庁から森林環境教育の講師の依頼を受けて小学校に伺った例がある。県庁から教育委員会及び小学校に照会を掛けられたものだが、上田市での実績はない状況である。担当課で環境教育を推進する際に、教育現場ではそこまで興味を持っていないという現状を理解していただいたうえで、連携しながら事業を進めてほしい。

(事務局) ぜひ上田市内の小中学校に足を運んでいただけるように教育委員会等と協力していきたい。また、個別の事例ではあるが、真田地域の山崎の森でやまぼうし自然学校さんに協力いただきながら環

境教育も進めている実績もあるため、そのような事例もきっかけとしながら、お声がけし波及するような取組としていきたい。

(委員) 先ほどの話で、子供のみならず大人もそのような活動に巻き込んでいただければと思う。また、自治会などによる里山の整備については、補助額 30 万円で足りるものなのかとも感じるため、広い意味で積極的に市民が関心を持てる取り組みを行ってほしい。

(事務局) 市もこれまでの活動において市内の子どもを対象とした森林と親しむイベントを開催しているが、子供が楽しむ以上に保護者が興味を持って参加されている場面もあり、そのようなイベントの機会をできる限り増やしていきたい。また、自治会への交付金の存在により、身近にある里山を整備し管理するきっかけにつながるため、交付金も有効活用していただければと考えている。

(委員) 去年の協議会の指摘を参考に KPI が設定されたことは評価できる。温暖化の影響等で森林の状況が変わりつつあるため、KPI の設定にそのようなことも反映させていく必要があると感じた。また、12 年ぶりに森林病虫害被害が増加に転じたことは重いことだと考える。

(事務局) 病虫害による被害に関しては、県と連携ながら対策を進めており、県や市の個別の計画が策定されているため、計画内容にも盛り込んだうえで一事業として取り組んでいきたい。

4 閉 会 (松崎森林整備担当係長)